

(証券コード：2551)
2018年11月27日

株主各位

愛知県岡崎市仁木町字荒下1番地
マルサンアイ株式会社
代表取締役社長 渡辺邦康

第67回定期株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご愛顧を賜り、心より厚くお礼申しあげます。

さて、当社第67回定期株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご出席下さいますようご通知申しあげます。

なお、本総会の付議事項には、その決議に定足数を必要とする議案がございますので、当日ご出席願えない場合は、書面によって議決権行使することができますから、後記の株主総会参考書類をご検討下さいまして、お手数ながら同封の議決権行使書用紙に賛否をご表示いただき、2018年12月13日（木曜日）午後5時30分までに到着するよう、折り返しご送付下さいますようお願い申しあげます。

敬具

記

1. 日 時	2018年12月14日（金曜日）午前10時（受付開始 午前9時）
2. 場 所	愛知県岡崎市康生町515番地33 岡崎ニューグランドホテル3階飛竜の間 (末尾の「株主総会会場ご案内図」をご参照下さい。)
3. 目的 事項 報告事項	<ol style="list-style-type: none"> 第67期（2017年9月21日から2018年9月20日まで）事業報告の内容、連結計算書類の内容並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件 第67期（2017年9月21日から2018年9月20日まで）計算書類の内容報告の件
決議事項 第1号議案 第2号議案	剰余金処分の件 取締役6名選任の件

以上

(お知らせ) 連結計算書類の連結注記表及び計算書類の個別注記表は、法令及び当社定款第15条の規定に基づき、インターネット上の当社ウェブサイト (<http://www.marusanai.co.jp/irkhon.html>) に掲載しておりますので、本招集ご通知の添付書類には記載しておりません。なお、会計監査人及び監査役が監査した連結計算書類及び計算書類は、本招集ご通知に記載の各書類のほか、連結計算書類の連結注記表及び計算書類の個別注記表となります。

事業報告、連結計算書類、計算書類及び株主総会参考書類に修正をすべき事情が生じた場合は、修正後の事項をインターネット上の当社ウェブサイト (<http://www.marusanai.co.jp/>) に掲載いたしますのでご了承下さいますようお願い申しあげます。

(お願い) 当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出下さいますようお願い申しあげます。

なお、当日お土産を用意しておりますが、ご持参の議決権行使書用紙の枚数にかかわらず、ご出席の株主様お一人に対し1個とさせていただきます。

又、資源節約のため、本招集ご通知をご持参下さいますようお願い申しあげます。

株主総会参考書類

議案及び参考事項

第1号議案 剰余金処分の件

期末配当金につきましては、1株当たり30円を基本とし、安定的かつ継続的に漸増させることを配当方針としております。

当期の配当金につきましては、上記の方針に基づき、当事業年度の業績及び経営環境並びに今後の事業展開などを勘案し、1株につき60円とさせていただきたく存じます。

期末配当に関する事項

1. 配当財産の種類
金銭
2. 株主に対する配当財産の割当てに関する事項及びその総額
当社普通株式1株につき金 60円 総額 136,890,480円
3. 剰余金の配当が効力を生じる日
2018年12月17日

第2号議案 取締役6名選任の件

取締役全員（6名）は、本総会終結の時をもって任期満了となります。つきましては、社外取締役1名を含む取締役6名の選任をお願いするものであります。

当社の取締役会は、定款の定めにより、15名以下の取締役で構成しております。当社の生産、営業、開発、管理、経営企画それぞれの部門の業務に精通し、事業運営及び経営管理に関する豊富な知識や経験、能力を有しております、当社グループの更なる発展に貢献することが期待できる者を取締役とすることを基本方針としております。

社外取締役に関しましては、多様な視点、経験豊富で高い専門性を有している人材を候補者としております。なお、当社における社外役員の独立性判断基準に関しましては、名古屋証券取引所が定める独立役員にかかる独立性基準に基づき、独立性を判断することとしております。

取締役候補者は次のとおりであります。

候補者番号	氏名（年齢）	現在の当社における地位及び（担当）	取締役会出席率（出席回数／開催回数）
1 再任	わた なべ くに やす 渡 辺 邦 康（満62歳）	代表取締役社長	100%（17回／17回）
2 再任	くら はし りょう じ 倉 橋 良 二（満61歳）	常務取締役（営業担当）	100%（17回／17回）
3 再任	かね こ あきら 兼 子 明（満60歳）	取締役（生産担当）	100%（17回／17回）
4 再任	さかい のぶ よし 堺 信 好（満60歳）	取締役（経営企画部長（兼）管理担当）	100%（17回／17回）
5 再任	あさ お ひろ あき 浅 尾 弘 明（満59歳）	取締役（開発担当）	100%（17回／17回）
6 再任	もり た ひさ お 森 田 尚 男（満62歳）	取締役（社外）	100%（17回／17回）

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、重要な兼職の状況 並びに当社における地位及び担当	所有する当社株式の数
1	わた なべ くに やす 渡辺邦康 (1956年11月10日)	<p>1979年4月 当社入社 1983年5月 関東地区北関東グループ宇都宮営業所長 1999年9月 管理本部システム開発課長 2005年9月 総務人事部総務人事課長 2009年3月 管理統括部総務人事課長 2010年9月 管理統括部長（兼）総務人事課長 2010年12月 当社取締役就任 2011年9月 管理統括部長 2012年2月 丸三愛食品商貿（上海）有限公司董事就任（現任） 2015年4月 当社取締役副社長就任 2015年9月 管理担当 2015年12月 当社代表取締役社長就任（現任） 2017年1月 マルサンアイ（タイランド）株式会社取締役就任（現任）</p>	11,300株
[取締役候補者とした理由]			
当社に入社以来、営業、システム開発、人事、労務、財務など幅広い業務経験と知識を有しております。代表取締役社長就任後は、企業価値向上に資する様々な経営課題に対し着実に取り組んでおり、業容の拡大に貢献しております。今後も強いリーダーシップにより、当社の更なる発展に貢献することができるから、引き続き取締役候補者としております。			
2	くら はし りょう じ 倉橋良二 (1957年11月24日)	<p>1980年4月 当社入社 2000年9月 営業本部中部営業部名古屋統括支店第1課長 2002年9月 営業本部中部営業部三河支店長 2005年9月 営業本部中部エリアマネージャー（兼）名古屋統括支店長 2008年4月 営業統括部東日本エリア長（兼）東京支店長 2009年9月 営業統括部副統括部長（兼）東日本エリア長 2010年9月 営業統括部長 2011年9月 営業統括部長（兼）海外営業室長 2011年12月 当社取締役就任 2014年9月 営業統括部長 2015年9月 営業担当（現任） 2017年12月 当社常務取締役就任（現任）</p>	7,600株
[取締役候補者とした理由]			
当社に入社以来、営業部門に従事し、営業拠点及び各エリアの部門長を歴任し、事業運営及び経営管理に関する豊富な経験、知識、能力を有しております。2010年からは営業統括部長として手腕を発揮し、当社の業績向上に貢献しております。また、近年では海外事業に関する見識と職務経験を有しております。今後も当社グループの更なる発展に貢献することができるから、引き続き取締役候補者としております。			

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、重要な兼職の状況 並びに当社における地位及び担当	所有する当社株式の数
3	かね こ あきら 兼子 明 (1958年5月15日)	<p>1981年4月 当社入社 1998年9月 生産購買本部製造部受託担当（兼）技術部担当 生産本部生産管理部生産管理課長 2003年3月 生産本部製造部飲料工場副工場長 2004年9月 生産本部製造部飲料工場長 2006年9月 経営管理部経営管理室副部長 2008年4月 営業統括部特販営業海外営業課長 2008年9月 営業統括部特販営業室海外営業・OEM課長 2009年9月 社長付アメリカン・ソイ・プロダクツINC.担当 2011年1月 アメリカン・ソイ・プロダクツINC.取締役C.E.O就任 2014年3月 生産統括部副統括部長（兼）社長付アメリカン・ソイ・プロダクツINC.担当 2014年12月 当社取締役就任（現任） 2014年12月 生産統括部長 2015年9月 生産担当（現任） 2016年1月 マルサンアイ鳥取株式会社代表取締役社長就任（現任） 2016年1月 アメリカン・ソイ・プロダクツINC. 取締役会長就任 </p>	9,100株

[取締役候補者とした理由]

当社において生産部門の工場長などを歴任し、生産全般及び事業運営並びに経営管理に関する豊富な経験や知識、能力を有しております。2011年からは米国関連会社の取締役C.E.Oを歴任し、グローバルな事業経営に関する見識と職務経験を有しております。2016年から子会社のマルサンアイ鳥取株式会社の代表取締役社長としても経営手腕を発揮し、2017年6月には、マルサンアイ鳥取株式会社新工場を無事稼働させ、豆乳の生産拡大に寄与しております。今後も当社グループの更なる発展に貢献することができるから、引き続き取締役候補者としております。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、重要な兼職の状況 並びに当社における地位及び担当	所有する当社株式の数
4	さかい のぶ よし 堺 信好 (1958年9月16日)	<p>1983年1月 当社入社 1993年7月 営業本部関西営業部神戸営業所長 2001年9月 営業本部西日本営業部大阪支店次長 2002年9月 営業本部西日本営業部大阪支店長 2006年8月 営業統括部西日本エリアマネージャー（兼） 大阪支店長 2009年12月 株式会社玉井味噌取締役就任 2010年9月 営業統括部西日本エリア長 2011年9月 営業統括部リテール営業部長 2013年9月 経営企画部長（現任） 2013年12月 株式会社玉井味噌代表取締役社長就任（現任） 2015年12月 当社取締役就任（現任） 2015年12月 管理担当（現任）</p> <p>[取締役候補者とした理由] 当社において営業拠点の責任者として、優れた組織管理・監督能力を発揮してまいりました。 2013年からは経営企画部長として当社の利益管理や部門間を取りまとめ、業績の向上に着実な成果を上げるとともに、中期戦略事業計画策定の中心的な役割を担っております。現在は子会社の株式会社玉井味噌の代表取締役社長としても経営手腕を発揮しております。今後も当社の更なる発展に貢献することができるから、引き続き取締役候補者としております。</p>	4,800株
5	あさ お ひろ あき 浅尾 弘明 (1958年12月17日)	<p>1982年4月 当社入社 1999年9月 開発本部研究所所長補佐 2005年9月 研究所研究室長 2007年9月 生産統括部製造部副部長 2008年9月 生産統括部総括工場長 2009年9月 生産統括部副統括部長（兼）総括工場長 2010年9月 生産統括部長 2011年12月 当社取締役就任（現任） 2012年9月 開発統括部長 2012年12月 株式会社匠美取締役 2013年12月 株式会社匠美代表取締役社長就任（現任） 2015年9月 開発担当（現任）</p> <p>[取締役候補者とした理由] 当社の開発・研究部門及び生産部門の部門長を歴任し、商品開発、基礎研究並びに事業運営及び経営管理に関する豊富な経験や知識、能力を有しております。現在は子会社の株式会社匠美の代表取締役社長としても経営手腕を発揮しております。また、中国関連会社やタイ王国販売子会社の事業運営等に関しても深く関わり、グローバルな事業経営に関する見識と職務経験を有しております。今後も当社の更なる発展に貢献することができるから、引き続き取締役候補者としております。</p>	7,400株

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、重要な兼職の状況 並びに当社における地位及び担当	所有する当社株式の数
	もり た ひさ お 森 田 尚 男 (1956年6月21日)	1990年4月 弁護士登録 (日弁連、愛知県弁護士会) 旗法律事務所入所 2008年8月 朝涼法律事務所代表 (現任) 2012年6月 日本空調サービス株式会社社外取締役就任 (現任) 2014年12月 当社取締役就任 (現任)	—
6	<p>[社外取締役候補者とした理由]</p> <p>社外役員となること以外の方法で、直接事業会社の経営に関与された経験はありませんが、弁護士としての専門知識・経験を生かし、当社の社外取締役として取締役会において独立性・公正性・株主目線を保ちつつ、審議議案に対し提案を行うことができる資質を有しております。当社のコーポレート・ガバナンス体制強化のための適切な役割を果たし、貢献いただいておりますことから、引き続き社外取締役候補者としております。</p>		

- (注) 1. 各候補者と当社との間に、特別の利害関係はありません。
 2. 森田尚男氏は、社外取締役候補者であります。なお、当社社外取締役就任期間は、本総会終結の時をもって4年であります。
 3. 森田尚男氏は、名古屋証券取引所の定めに基づく独立役員の要件を満たしており、独立役員として届け出をしております。
 4. 責任限定契約について
 当社と森田尚男氏との間で会社法第427条第1項及び当社定款第28条の規定に基づき、責任限定契約を締結しております。なお、当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が規定する限度額としております。

以 上

事業報告

(2017年9月21日から)
(2018年9月20日まで)

1. 企業集団の現況に関する事項

(1) 事業の経過及びその成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業収益の回復や雇用環境の改善を背景に、緩やかな回復基調で推移いたしました。しかしながら、国際情勢におきましては、米国の保護主義政策による貿易摩擦の懸念など、先行き不透明な状況が続いております。

食品業界におきましては、個人消費の持ち直しの動きは力強さを欠き、依然として節約志向が根強い中、企業間の価格競争の激化や製造変動費の増加など、引き続き厳しい状況が続いております。

みそ業界におきましては、海外への輸出や業務用の出荷が堅調に推移し、近年は出荷量の下げ止まりがみられるものの、国内での生みその需要減退が課題となっております。

豆乳業界におきましては、健康志向の高まりを背景として、料理などへの汎用性の高い無調整豆乳を中心に、堅調に推移しております。

このような環境の中で、当社グループは「健康で明るい生活へのお手伝い」を企業理念とし、安全で安心できる製品の供給に努めるとともに、原価高騰に対して、事業の効率化やコスト削減等に努め、経営基盤の強化に取り組んでまいりました。

この結果、売上高は、豆乳が順調に推移したため263億40百万円（前年同期比3.9%増）、営業利益は、運賃、水道光熱費及び子会社であるマルサンアイ鳥取株式会社の減価償却費等の製造原価の増加により3億79百万円（前年同期比46.6%減）、経常利益は、営業利益が減少したため4億14百万円（前年同期比55.1%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は、マルサンアイ鳥取株式会社に対する補助金収入12億83百万円があったため11億46百万円（前年同期比177.3%増）となりました。

当連結会計年度の各部門別売上高は、次のとおりであります。

部 門 別		第 66 期 (2016年9月21日から) (2017年9月20日まで)		第 67 期 (2017年9月21日から) (2018年9月20日まで)		対前連結会計年度 比較増減率
		金額	構成比	金額	構成比	
	生 み そ	百万円 3,738	% 14.7	百万円 3,824	% 14.5	% 2.3
	調 理 み そ	396	1.6	375	1.4	△5.5
	即 席 み そ	416	1.6	411	1.6	△1.3
	液 状 み そ	43	0.2	169	0.6	291.8
	み そ 事 業 計	4,594	18.1	4,780	18.1	4.0
	豆 乳	15,577	61.5	17,026	64.7	9.3
	飲 料	3,082	12.1	2,380	9.0	△22.8
	豆 乳 飲 料 事 業 計	18,659	73.6	19,406	73.7	4.0
	そ の 他 食 品 事 業	2,073	8.2	2,135	8.1	3.0
	技術指導料その他	17	0.1	18	0.1	0.6
	合 計	25,345	100.0	26,340	100.0	3.9

① みそ事業

生みそが堅調に推移したほか、2017年9月に発売した液状みその売上が寄与し、売上高は、47億80百万円（前年同期比4.0%増）となりました。

<生みそ>

海外向けのみそや、業務用みそが拡大したほか、メディアで特集された影響で赤だしの出荷が増加したため、売上高は、38億24百万円（前年同期比2.3%増）となりました。

<調理みそ>

主力製品である「酢みそ」、「からし酢みそ」等の売上が減少したため、売上高は、3億75百万円（前年同期比5.5%減）となりました。

<即席みそ>

「懐石仕立本場赤だし6食」及びカップ即席みそ汁が好調に推移したものの、フリーズドライ製品の売上が減少したため、売上高は、4億11百万円（前年同期比1.3%減）となりました。

2018年3月に、人気のサンリオキャラクター「ぐでたま」をパッケージに採用した「ぐでたまのかき玉みそ汁4食入り」をリニューアルいたしました。新たにサンリオのキャラクターショップ等でも取り扱われるなど、販売ルートの拡大に努めました。

2018年9月には「緑黄色野菜のみそ汁4食」を発売いたしました。具材に栄養豊富で彩り豊かな緑黄色野菜（カボチャ、チンゲンサイ、ニンジン）を使用しており、野菜の甘みと食感が味わえます。又、抗ストレス、リラックス効果があると言われる大麦乳酸発酵ギャバを、1食当たり30mg配合いたしました。

<液状みそ>

2017年9月に発売した鮮度ボトル入り液状みそ「香りつづくとろける味噌」シリーズの販売促進に努めた結果、売上高は、1億69百万円（前年同期比291.8%増）となりました。

2018年3月に「香りつづくとろける味噌減塩だし入りあわせ410g/205g」と「香りつづくとろける味噌あわせ、こしこうじ、赤だし」の205gタイプを発売いたしました。美味しさと便利を両立した本製品は、核家族化や有職女性の増加という社会環境の変化による、基礎調味料離れや料理時間の短縮等のニーズに応えた、新しい形のみそ生活をご提案する製品です。みそ自体の使いにくさ、保存のしにくさ、容器の不便さ等のみそに対する困りごとを解決した、開封後も常温で90日間鮮度を保つ液状だし入りみそです。誰でも簡単にお好みの量や濃さでおいしいみそ汁がつくれる上に、今まで作りにくかった炒め物や煮物もすぐに作ることができます。発売から1年で、本シリーズの出荷数量は100万本を突破いたしました。

2018年9月には、ロングセラー商品「純正こうじみそ」と同じ原料を使用した「鮮度のこうじみそ410g」、あごだしの旨味を引き立たせた、化学調味料無添加の「香りつづくとろける味噌あごだし205g」を発売し、更なるラインナップの充実を図りました。

② 豆乳飲料事業

豆乳が順調に推移したため、売上高は、194億6百万円（前年同期比4.0%増）となりました。

<豆乳>

無調整豆乳、海外向け製品及び200mlタイプの製品が好調に推移し、売上高は、170億26百万円（前年同期比9.3%増）となりました。

2018年3月に、昭文社の人気旅行ガイドブック「ことりっぷ」編集部が監修した「ことりっぷ豆乳飲料」シリーズ品として「瀬戸内レモン」を発売いたしました。ことりっぷは20～40代の女性に支持されており、200mlパック飲料のメインターゲットと親和性があります。2018年9月にはシリーズ品「黒ごまさつま」を新たに発売し、現在は3品を展開しております。スーパー等の既存ルートだけでなくコンビニエンスストア等にも導入され、好評を博しております。

2018年3月に「豆乳飲料冷たいコーンスープ200ml」を発売いたしました。クラッシュコーンの入った、業界では珍しい固形物入りの豆乳飲料です。スープ売場にも展開することで、新規ユーザーの獲得を目指しました。化学調味料を使用せず、ビタミンEと食物繊維を加えて栄養バランスを整えた、朝食にも適した栄養機能食品です。

2018年9月には若い女性に訴求するため、サンリオとコラボした「ハローキティ豆乳飲料りんごはちみつ/紅茶200ml」の2品を発売いたしました。豆乳初心者でもおいしく飲める、10～20代向けの栄養素を強化した栄養機能食品の豆乳飲料です。ハローキティ愛好者や訪日外国人旅行者等にも訴求できる本商品は、サンリオのキャラクターショップでも取扱われております。

2017年9月に発売した「タニタカフェ監修オーガニック豆乳」シリーズは好評を博しており、発売から1年で、新製品としては異例の売上3億4千万円を達成いたしました。

<飲料>

「あまざけ」が順調に推移したものの、受託製造品が減少したため、売上高は、23億80百万円（前年同期比22.8%減）となりました。

2018年3月に「タニタカフェ監修オーガニック豆乳」シリーズの姉妹品として、オーガニックアーモンドペーストを使用した「タニタカフェ監修アーモンドミルクリラックス/ナチュラル」200mlと1000mlを発売いたしました。成長の見込める植物性ミルク市場にいち早く取り組んだメーカーとして、安全と健康を追求した商品を開発いたしました。アーモンドの含有量にもこだわり、香料を使用していないのでアーモンドの風味そのものを味わっていただけます。現在はタニタカフェの店舗でも、豆乳とともにメニューに使用しております。

2018年9月には「あまざけ200ml/1000ml」のシリーズ品として、「あまざけ生姜200ml」を発売いたしました。甘酒と相性のよい生姜フレーバーで、植物性乳酸菌を1,000億個配合しております。「第3のミルク」市場はメディアにも取り上げられる機会が増えしており、年々需要が増加しております。

③ その他食品事業

「豆乳グルト400g」や水煮大豆の売上が順調に推移したため、売上高は、21億35百万円（前年同期比3.0%増）となりました。

好調な「豆乳グルト400g」の姉妹品として、2018年9月に「国産大豆の豆乳使用豆乳グルト400g」を発売いたしました。ご要望の多かった、国産大豆を使用した豆乳で作った豆乳グルトであり、大豆固形分を9%とし、国産大豆のおいしさを味わえます。

鍋スープでは2018年9月に、ストレート鍋スープ「まつやとり野菜みそ鍋スープ」を発売いたしました。今まで販売していたコラボ品ではなく、元祖「まつやとり野菜みそ」をストレート鍋スープとして商品化し、鍋スープ売場での定着を図ってまいります。

その他には「魚介系らーめん仕立て真鯛寄せ鍋スープ/海老味噌鍋スープ750g」の2品を発売いたしました。日本のソウルフードの代表格であるらーめんのスープ風に仕立て、鍋と一緒にメモ楽しむという食べ方をご提案しております。万人がイメージしやすい「ラーメンスープの味わい」、「和風トレンドだし」、「減塩」をコンセプトとした、大人から子どもまで家族全員に楽しんでもらえる減塩鍋スープです。

又、中部・関西地区限定で「どかっ鍋キムチ鍋スープ/寄せ鍋スープ1kg」を発売いたしました。鍋スープの分量が少ない、足りないというご意見をもとに開発した、業界最大容量である1kgの鍋スープです。なお、おなじみの定番ストレート鍋スープ750gシリーズ5品（ちゃんこ鍋、寄せ鍋、豆乳鍋、キムチ鍋、ごまみそ鍋）のデザインリニューアルを実施いたしました。

④ 技術指導料その他

技術指導料及び受取ロイヤリティーとして、売上高18百万円（前年同期比0.6%増）を計上いたしました。

(2) 設備投資等の状況

会社名	セグメントの名称	金額	主な内容
マルサンアイ株式会社	みそ事業	64 百万円	みそ製造工程設備
	豆乳飲料事業	234	関東工場豆乳生産設備
	その他食品事業	0	一
	共通	46	研究設備
株式会社匠美	豆乳飲料事業	8	清涼飲料水生産設備
株式会社玉井味噌	みそ事業	13	排水処理設備
マルサンアイ鳥取株式会社	豆乳飲料事業	974	第二期工事に伴う生産設備
丸三愛食品商貿(上海)有限公司	共通	4	営業車両購入
マルサンアイ(タイランド)株式会社	共通	0	事務所の環境整備
合	計	1,347	

(3) 資金調達の状況

当連結会計年度に実施いたしました設備投資等の所要資金は、自己資金及び金融機関からの借入金により充当いたしております。

(4) 対処すべき課題

当社グループを取り巻く社会環境は、内外の諸事情から見ましても今後とも厳しい状況が予想されます。

こうした中、当社グループは2018年9月期を初年度とした第二次中期経営計画を策定いたしました。本計画では企業理念「健康で明るい生活へのお手伝い」、品質方針「お客様満足を追求し、業務品質の進歩により、企業ブランドの向上を図る」のもと、みそ・豆乳を主力に、大豆のプロとして存在価値を高めていくとともに、自然の恵みから、おいしさと健康をお届けする総合食品メーカーを目指してまいります。

1. 基本方針

企業基盤を強化して夢の実現を図る・・・将来にわたり多くのマルサンファンを作る
(夢: 2023年グループ売上300億円)

2. 4つの基盤強化

- (1) 売上基盤…豆乳、鮮度みその拡大/健康・機能性の追求
- (2) 収益基盤…ローコスト体質化、鳥取第二期工事後の本稼働
- (3) 安心安全基盤…FSSC22000の定着化/食品・安全方針、品質方針の実行
- (4) 人材育成基盤…企業風土の向上

↓

・新事業への挑戦、拡大…海外、チルド、新飲料、新チャネル

3. 3つの財務体質強化

- (1) P L の改善…売上拡大、営業利益率向上
- (2) B S の改善…自己資本比率の向上
- (3) C F の拡大…営業CFの拡大とフリーCFの維持

4. 投資方針

大型投資として2019年度稼働予定の鳥取第二期稼働を考え、同時に収益の安定的確保の為に既存工場の再配置設備も検討します。

海外においては中国、東南アジア拡大を視野に入れ投資をします。

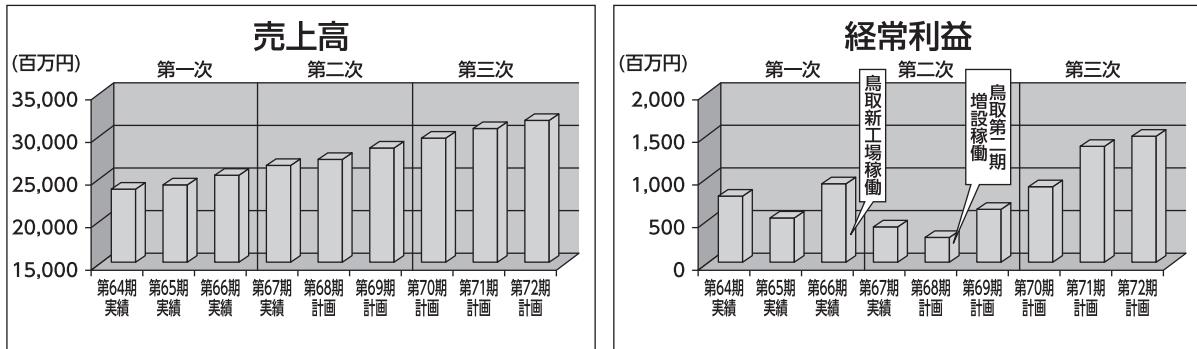
安全・安心、人材育成投資も積極的に進めてまいります。

5. 配当方針

安定的に基本1株当たり30円の方針です。

それを基本とし、利益状況に応じて検討してまいります。

マルサングループ中期経営計画 (2018年11月1日公表)



6. 内部統制の充実

内部統制システムに関する基本方針に基づくコンプライアンス遵守体制及びリスク管理体制の更なる充実。

7. コーポレートガバナンスの強化

持続的成長と中長期的な企業価値の向上。

8. 環境対策

企業活動を通じて、人間と自然が共生できる環境の創造と、持続的発展が可能な社会づくりに貢献します。

(5) 財産及び損益の状況の推移

	第 64 期 (2014年9月21日から (2015年9月20日まで)	第 65 期 (2015年9月21日から (2016年9月20日まで)	第 66 期 (2016年9月21日から (2017年9月20日まで)	第 67 期 (2017年9月21日から (2018年9月20日まで)
売 上 高 (百万円)	23,707	24,238	25,345	26,340
営 業 利 益 (百万円)	631	748	710	379
経 常 利 益 (百万円)	792	531	922	414
親会社株主に帰属 する当期純利益 (百万円)	516	314	413	1,146
1 株 当 た り 当 期 純 利 益	225円25銭	137円19銭	180円90銭	502円47銭
総 資 産 (百万円)	16,994	18,429	23,944	23,475
純 資 産 (百万円)	3,740	3,892	4,203	5,276

- (注) 1. 1株当たり当期純利益は、期中平均発行済株式総数に基づき算出しております。
 2. 2016年3月21日付で普通株式5株を1株に併合しております。第64期の期首に当該株式併合が行
 われたと仮定し、「1株当たり当期純利益」を算定しております。

(6) 重要な親会社及び子会社の状況

- ① 親会社との関係
 該当事項はありません。

② 重要な子会社の状況

会社名	所在地	資本金	当社の議決権比率	主要な事業内容
株式会社匠美	富山県中新川郡立山町東大森289番地2	38百万円	90.0%	清涼飲料水の加工・販売
株式会社玉井味噌	長野県東筑摩郡筑北村坂井561番地	45百万円	70.0%	みその製造・販売
マルサンアイ鳥取株式会社	鳥取県鳥取市河原町西円通寺字畠ヶ中81番1	250百万円	100.0%	豆乳及び飲料の製造
丸三愛食品商貿(上海)有限公司	中華人民共和国上海市閔行区宜山路2016号合川大厦7楼C室	540万元	100.0%	中国国内におけるみそ及びみそ関連製品の開発・製造・販売 豆乳及び飲料等の販売
マルサンアイ(タイランド)株式会社	32/25 Sino-Thai Tower4F., Sukhumvit 21 Rd. (Asoke), Klongtoey-Nua,Wattana,Bangkok 10110,Thailand	2,000万バーツ	99.9%	食品の輸出入販売等

(7) 主要な事業内容

大豆を主原料とするみそ(生みそ、調理みそ、即席みそ)、豆乳、無菌充填技術を活かした飲料類、水(ミネラルウォーター)、その他食品の製造販売。

(8) 主要な営業所及び工場

① 当社

名 称	住 所
本社及び本社工場	愛知県岡崎市仁木町字荒下1番地
物流センター	愛知県岡崎市仁木町五反田199番地
関東工場	群馬県利根郡みなかみ町政所1010番地
北海道営業所	北海道札幌市豊平区平岸三条7丁目11番15号 ジャムビル3階
東北支店	宮城県仙台市泉区市名坂字御釜田147番地1 アンジュ市名坂1階
北関東支店	栃木県小山市城東1丁目4番24号 TSビルV2階
東京支店	東京都渋谷区代々木3丁目28番6号 いちご西参道ビル2階
北陸営業所	石川県金沢市新神田1丁目9番20号 中仙ビル1階
静岡支店	静岡県静岡市葵区沓谷6丁目20番1号 ル・シエル102号
名古屋支店	愛知県長久手市蟹原911番地
大阪支店	大阪府茨木市舟木町19番3号
岡山支店	岡山県岡山市北区春日町5丁目10番 レポース春日101号
広島支店	広島県広島市東区若草町15番地1号 前田ビル3階
九州支店	福岡県福岡市博多区博多駅南1丁目7番22号 ブックローン福岡ビル3階B室

(注) 2018年5月21日付にて九州支店は、福岡県福岡市南区高木1丁目9番12号から上記住所へ移転いたしました。

② 子会社

会 社 名	名 称	住 所
株式会社匠美	本社及び東大森工場	富山県中新川郡立山町東大森289番地2
	坂井沢工場	富山県中新川郡立山町坂井沢154番地1
株式会社玉井味噌	本社及び本社工場	長野県東筑摩郡筑北村坂井561番地
マルサンアイ 鳥取株式会社	本社及び本社工場	鳥取県鳥取市河原町西円通寺字畠ヶ中81番1
丸三愛食品商貿 (上海)有限公司	本社	中華人民共和国上海市閔行区宜山路2016号 合川大厦7楼C室
マルサンアイ(タイラ ンド)株式会社	本社	32/25 Sino-Thai Tower4F.,Sukhumvit 21 Rd. (Asoke), Klongtoey-Nua,Wattana, Bangkok 10110,Thailand

(9) 従業員の状況

従業員数	前連結会計年度末比増減
408 [139]名	27名増

- (注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は〔 〕内に当連結会計年度の平均人員を外数で記載しております。
2. 臨時従業員は、契約・嘱託従業員(56名)、パート従業員(48名)、人材派遣(25名)及びアルバイト従業員(10名)の総数です。なお、アルバイト従業員数は、一人当たり1日8時間で換算して算出しております。
3. 従業員数には、出向者(1名)は含まれておりません。

(10) 主要な借入先

借入先	借入額
株式会社山陰合同銀行	1,860 百万円
株式会社鳥取銀行	1,590
鳥取市	1,485
株式会社みずほ銀行	518
株式会社三菱UFJ銀行	511
株式会社三井住友銀行	392
岡崎信用金庫	323
碧海信用金庫	297
株式会社名古屋銀行	264
三井住友信託銀行株式会社	233

2. 会社の株式に関する事項

- | | |
|--------------|------------------------------|
| (1) 発行可能株式総数 | 8,000,000株 |
| (2) 発行済株式の総数 | 2,296,176株 (自己株式 14,668株を含む) |
| (3) 株主数 | 3,064名 (前期末比 100名増) |
| (4) 大株主 | |

株 主 名	持 株 数	持 株 比 率
株 式 会 社 佐 藤 産 業	305,060 株	13.37 %
佐 藤 公 信	180,684	7.92
マルサンアイ取引先持株会	155,900	6.83
石 田 典 子	90,566	3.97
福 島 裕 子	90,566	3.97
マルサンアイ従業員持株会	90,380	3.96
佐 藤 明 子	41,660	1.83
ひかり味噌株式会社	40,000	1.75
石 田 治 夫	39,160	1.72
福 島 重 喜	39,160	1.72

(注) 持株比率は、自己株式 (14,668株) を控除して計算しております。

3. 会社の新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 会社役員に関する事項

(1) 取締役及び監査役の氏名等

地 位	氏 名	担当及び重要な兼職の状況
代表取締役社長	渡辺邦康	丸三愛食品商貿（上海）有限公司董事 マルサンアイ（タイランド）株式会社取締役
常務取締役	倉橋良二	営業担当
取締役	兼子明	生産担当 マルサンアイ鳥取株式会社代表取締役社長
取締役	堺信好	経営企画部長（兼）管理担当 株式会社玉井味噌代表取締役社長
取締役	浅尾弘明	開発担当 株式会社匠美代表取締役社長
取締役	森田尚男	弁護士（朝涼法律事務所代表） 日本空調サービス株式会社社外取締役
常勤監査役	寺川和成	
監査役	畠部泰則	税理士（畠部泰則税理士事務所所長） 税理士（たくま税理士法人代表）
監査役	新井一弘	株式会社匠美監査役 株式会社玉井味噌監査役 マルサンアイ鳥取株式会社監査役

- (注) 1. 取締役森田尚男氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
 2. 監査役畠部泰則氏及び新井一弘氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
 3. 当社は取締役森田尚男氏及び監査役畠部泰則氏を、名古屋証券取引所規則に定める独立役員として同取引所に届け出ております。
 4. 監査役畠部泰則氏及び新井一弘氏は、税理士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。
 5. 代表取締役会長伊藤明徳氏は、2017年12月14日開催の第66回定時株主総会終結の時をもって、任期満了により取締役を退任いたしました。
 6. 重要な兼職の異動の状況について
取締役兼子明氏は、持分法適用関連会社であったアメリカン・ソイ・プロダクツINC.の取締役会長を兼職しておりましたが、2018年6月に当社が保有する同社の全株式を売却し、当社の持分法適用関連会社の範囲から除外されたことに伴い、同氏は同社取締役会長を退任しております。
 7. 当事業年度中に以下の取締役の地位について異動がありました。

氏 名	変更後	変更前	異動年月日
倉橋良二	常務取締役	取締役	2017年12月14日

(2) 責任限定契約の内容の概要

当社は、会社法第427条第1項の規定により、社外取締役及び各監査役との間に、同法第423条第1項の賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく責任の限度額は、法令が定める範囲内としております。

(3) 取締役及び監査役の報酬等の額

区分	支給人員	支給額
取締役 (うち社外取締役)	7名 (1名)	114,886千円 (4,770千円)
監査役 (うち社外監査役)	3名 (2名)	16,092千円 (3,525千円)
合計	10名	130,979千円

- (注) 1. 取締役の支給額には、使用人兼務取締役の使用人給与相当額12,388千円は含まれておりません。
2. 当社は、2010年12月9日開催の第59回定時株主総会における、役員退職慰労金制度の廃止に伴う打ち切り支給決議に基づき、退職慰労金を取締役及び監査役の退任時に支払うこととしております。これにより、当事業年度中に上記のほか次のとおり支給しております。
2017年12月14日開催の取締役会決議に基づく役員退職慰労金
退任取締役 1名 10百万円（功労加算含む）
3. 取締役の報酬限度額は、2010年12月9日開催の第59回定時株主総会において年額2億円以内と決議いただいております。
4. 監査役の報酬限度額は、2010年12月9日開催の第59回定時株主総会において年額40百万円以内と決議いただいております。

(4) 社外役員に関する事項

① 重要な兼職先と当社との関係

社外取締役森田尚男氏は、朝涼法律事務所代表及び日本空調サービス株式会社の社外取締役を兼務しております。なお、当社は、日本空調サービス株式会社より一部空調設備の導入及びメンテナンス等の取引関係があるものの、同社の売上高に対する割合、当社の設備投資額及び修繕費等に対する割合は僅少であります。又、社外取締役森田尚男氏は、日本空調サービス株式会社の業務執行に関与しておらず、当社の社外取締役としての独立性に影響はございません。なお、同氏は、日本空調サービス株式会社の代表取締役ではなく、さらに、同氏、同氏の近親者及び朝涼法律事務所は、過去並びに現在において、当社の株式を保有していないことから、当社と同氏との間に特別の利害関係はございません。

社外監査役畠部泰則氏は畠部泰則税理士事務所所長を兼務しております。なお、当社は同税理士事務所との間に特別な関係はありません。

社外監査役新井一弘氏はたくま税理士法人の代表を兼務しております。なお、当社は同税理士法人との間で税務相談等の取引があります。又、同氏は当社の連結子会社である株式会社匠美、株式会社玉井味噌及びマルサンアイ鳥取株式会社の監査役を兼務しております。なお、当社は各社との間でそれぞれ水、みそ及び豆乳等の生産委託の取引関係があります。

② 当事業年度における主な活動状況

区分	氏名	主な活動状況
取締役	森田尚男	当事業年度開催の取締役会17回のうち17回に出席し、必要に応じて弁護士としての専門的見地からの発言を適宜行っています。
監査役	畠部泰則	当事業年度開催の取締役会17回のうち17回に、監査役会7回のうち7回に出席し、必要に応じて税理士としての専門的見地からの発言を適宜行っています。
監査役	新井一弘	当事業年度開催の取締役会17回のうち17回に、監査役会7回のうち7回に出席し、必要に応じて税理士としての専門的見地からの発言を適宜行っています。

③ 当社の子会社から当事業年度の役員として受けた報酬等の総額
該当事項はありません。

④ 社外役員の独立性判断基準

当社は、名古屋証券取引所が定める独立役員にかかる独立性基準に基づき、独立性を判断することとしています。

5. 会計監査人の状況

(1) 会計監査人の名称

三優監査法人

(2) 責任限定契約の内容の概要

該当事項はありません。

(3) 当事業年度に係る会計監査人に対する報酬等の額

① 当社及び当社の子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額	19,200千円
② 上記①の合計額のうち、公認会計士法（1948年法律第103号）第2条第1項の業務（監査証明業務）の対価として当社及び当社の子会社が会計監査人に支払うべき報酬等の額	19,200千円
③ 上記②の合計額のうち、当社が会計監査人に支払うべき報酬等の額	19,200千円

（注） 当社と会計監査人との間の監査契約において会社法に基づく監査と、金融商品取引法に基づく監査の額を区分しておりませんので、③の金額には金融商品取引法に基づく監査の報酬等を含めています。

(4) 当事業年度に係る会計監査人の報酬等について監査役会が同意した理由

監査役会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、前事業年度の監査計画と実績の比較、監査時間及び報酬額の推移を確認した上、当事業年度の監査予定時間及び報酬額見積もりの妥当性を検討した結果、会計監査人の報酬につき、会社法第399条第1項の同意を行っております。

(5) 非監査業務の内容

該当事項はありません。

(6) 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に該当すると判断される場合、監査役会は監査役全員の同意により会計監査人を解任する方針であります。

又、監査役会は、上記の場合のほか、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定する方針であります。

なお、監査役会は上記方針に基づき、会計監査人の解任又は不再任の検討を毎年実施いたします。

6. 会社の体制及び方針

(1) 取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他業務の適正を確保するための体制

当社は、業務の適正を確保するための内部統制システムに関する基本方針について、取締役会において次のとおり決議いたしました。

① 当社及び当社子会社から成る企業集団（以下「当社グループ」という）の取締役及び使用者の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- イ. 当社グループは、「すべてのステークホルダーに対する企業価値の向上」を経営上の基本方針のひとつとし、その実現のためコンプライアンス委員会の設置をはじめとし、取締役及び使用者が法令及び定款等を遵守することを徹底するとともに、これらに対する内部監査を実効的に行うための社内体制の整備・充実を図る。
- ロ. コンプライアンス委員会は、当社グループの役員及び使用者がコンプライアンスを確実に実践するよう支援、指導する。
- ハ. コンプライアンス委員会は、使用者のコンプライアンスの指針として、コンプライアンス委員会規程を制定し、その周知徹底及び社内教育を図るための指針となる「マルサンカード」を取締役及び使用者に交付する。
- ニ. コンプライアンス委員会に社外委員を置き、社外委員が直接使用者から通報・相談を受け付ける内部通報制度を導入し、不正行為の早期発見と是正に努める。
- ホ. 社外委員は、情報提供者を特定し得る情報を開示することなく、当該内部情報をコンプライアンス委員会に諮り、対応を検討する。
- ヘ. コンプライアンス委員会では、定期的に会議を実施し、課題の抽出や改善策等の検討を行う。

② 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

- イ. 取締役の職務の執行に係る情報については、法令・定款及び社内規程に基づき、適切に保存及び管理を行う。
- ロ. 前項の情報の管理については、必要に応じて運用状況の検証、各規程の見直し等を行い、取締役及び監査役は、社内規程に基づきこれらの情報をいつでも閲覧できる。

③ 当社グループの損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- イ. 当社グループに係わる種々のリスクの予防、発見、管理のため、リスク管理委員会を設置し、リスク管理規程及び危機管理マニュアルに基づき、個々のリスクについて管理責任者を定め、リスク管理体制を明確化する。また、不測の事態が発生した場合、社長指揮下の対策本部を設置し、迅速な対応を行い、損害の拡大を防止し最小限にとどめるよう努力する。
- ロ. リスク管理委員会は、当社各部門及び子会社ごとにリスクの状況を管理し、その結果を定期的に取締役会に報告し、当社グループ全体の問題点の把握と改善に努める。

- ④ 当社グループの取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
- イ. 取締役会は、定期的に行われる定時取締役会と必要に応じて開催する臨時取締役会を実施し、法令や定款で定めた事項や経営に関する重要な意思決定、中期経営計画の策定・遂行や進捗状況を報告するとともに当社グループの業務執行状況等の報告を行う。
 - ロ. 役付取締役等により構成される戦略会議を毎月1回開催し、戦略会議において、経営上の重要事項及び業務執行を効率的に進める方法を討議する。
 - ハ. 取締役会は、前項に定める戦略会議の討議を考慮しながら役職員が共有する全社的な目標を定め、各業務執行担当取締役は、その目標達成のために各部門の指導及び助言を行う。
- ⑤ 当社グループにおける業務の適正を確保するための体制
- イ. 当社の子会社及び関係会社（以下「子会社等」という）については、関係会社管理規程に基づき管理担当取締役が子会社等の業務の全般を統括管理し、個々の業務については、経営企画部門、総務人事部門、経理財務部門が管理する。
 - ロ. 子会社等のリスク予防・管理その他の業務運営の法令及び定款の遵守の状況を監査するため、当社の内部監査部門が定期的に監査を実施する。監査の結果、子会社等に損失の危険の発生を把握した場合には、直ちに当該子会社等の取締役、監査役、その他担当部署に報告する体制を構築する。
- ⑥ 監査役の職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項及び当該使用人の取締役からの独立性に関する事項
- イ. 監査役が必要とした場合、監査役の職務を補助すべき使用人を置く。なお、その場合、当該使用人は、監査役の指揮命令下におく。
 - ロ. 当該使用人の人事及び人事待遇については、取締役会と監査役会が事前に協議の上決定する。
 - ハ. 当該使用人の評価は、監査役会が行い、当該使用人の解任、人事異動、賃金等の改定に関する取締役会の決定については、監査役会の同意を得なければならない。監査役より監査業務に必要な命令を受けた当該使用人は、その命令に関して、取締役、内部監査部門等の指揮命令を受けないものとする。
 - 二. 当該使用人は業務の執行に係る役職を兼務しない。
- ⑦ 取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制
- イ. 監査役は、取締役会、戦略会議等の重要な会議に出席できるとともに、必要に応じて意見を述べることができる。

□ 取締役及び使用人は、当社グループに著しい損害を及ぼすおそれのある事実、職務の執行に関する不正行為、法令・定款に違反する事実、その他重要な事実が発生した場合、直ちに監査役に報告しなければならない。監査役は、いつでも必要に応じて、取締役及び使用人に対して報告及び情報提供を求めることができる。

監査役へ報告を行った者が、当該報告をしたことを理由として不利益な取り扱いを受けることを禁止する。

また、監査役の職務を遂行する上で必要な費用の前払い、又は償還の手続き、その他の当該職務の遂行について生ずる費用又は債務等の請求をしたときは、速やかに当該費用又は債務を支払う。

⑧ その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

監査役は、会計監査人、内部監査部門、顧問弁護士及びコンプライアンス委員会と情報交換に努め、連携して当社グループの監査の実効性を確保する。

⑨ 財務報告の信頼性を確保するための体制

イ. 当社グループの財務報告に係る透明性・信頼性の確保及び内部統制報告書の有効かつ適切な提出のため、内部統制委員会を設置する。

ロ. 財務報告に係る内部統制が有効に行われるよう、財務報告に係る内部統制の整備、運用、評価及び継続的な見直しを行う。

⑩ 反社会的勢力を排除するための体制

イ. 反社会的勢力及び団体と関わりのある企業、団体、個人とは、取引関係その他一切の関係を持たない。

ロ. 社会の秩序や企業の健全な活動に対して脅威を与える反社会的勢力に対しては、組織全体として毅然とした態度で対応する。

ハ. 反社会的勢力による不当要求が発生した場合、危機管理マニュアルに基づいて対応する。

(2) 株式会社の支配に関する基本方針

当社は、株式の大量取得を目的とする買い付けが行われる場合において、それに応じるか否かは、最終的には株主の皆様の判断に委ねられるべきと考えております。

しかしながら、高値での売り抜け等の不当な目的による大量買い付けは、企業価値及び株主共同の利益を毀損する場合があります。そのような買収者から当社の企業価値や株主をはじめとする各ステークホルダーの利益を守ることは、経営を預かる者として当然の責務であると認識しております。

現在のところ、当社株式の大量買い付けに係る具体的な脅威が生じているわけではなく、当社において、いわゆる「買収防衛策」を定めるものではありません。当社は、現在の経営施策を着実に実行し、業績の向上を図り、企業価値を高めることが、買収防衛に繋がると考えております。

しかし、「買収防衛策」につきましては、重要な経営課題の一つと認識しており、各方面から様々なご意見、対応策等をお聞きする等、当社としての有効な対応策を今後も継続して検討してまいります。

(3) 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

① コンプライアンスに対する取り組み

コンプライアンス委員会を四半期に1回開催し、内部通報制度の実施状況、コンプライアンスに関する課題の抽出や改善策等の検討を行っております。

なお、コンプライアンスの周知徹底及び社内教育を図るための指針となる「マルサンカード(第11版)」を2018年9月に改訂し、当社グループの取締役及び使用人等に交付いたしました。

② リスク管理体制に関する取り組み

リスク管理委員会を四半期に1回開催し、当社グループで対応すべきリスクの評価、当該リスクへの対応策などの検討を行っております。

③ 取締役の職務の執行が効率的に行われていることを確保するための取り組み

取締役会については、17回開催（うち臨時取締役会5回）いたしました。取締役の職務執行の適法性を確保し、取締役の職務執行の適正性及び効率性を高めるために社外役員が常時出席いたしました。

そのほか、部長以上で構成される部長会を毎月開催し、戦略会議や取締役会で話し合われた内容の共有化を図るとともに、各部門における重点事項及び課題の報告やそれらの対策などの検討を行っております。

④ 内部監査の実施について

社長直轄部門である内部監査室が、当社及び当社子会社の内部監査を実施し、その結果を代表取締役社長及び監査役に報告いたしました。

⑤ 監査役の監査が実効的に行われることを確保するための取り組み

監査役は、取締役、内部監査室担当者、その他使用人及び会計監査人とそれぞれ適宜意見交換を行いました。

⑥ 財務報告の信頼性を確保するための取り組み

内部統制委員が当社及び当社子会社の全社統制及びIT全般統制、業務プロセス統制、決算財務プロセス統制の整備と運用状況の評価を実施し、取締役会に報告いたしました。

⑦ 反社会的勢力を排除するための取り組み

契約書等に反社会的勢力の排除に関する条項を盛り込むとともに、反社会的勢力の情報を収集する取り組みを総務人事課が継続的に実施いたしました。

~~~~~  
(注) 1. 事業報告中の記載金額及び株式数は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。百分率は、表示単位未満を四捨五入しております。

2. 売上高などの記載金額には、消費税額は含まれておりません。

# 連結貸借対照表

(2018年9月20日現在)

(単位：千円)

| 資産の部            |                   | 負債の部           |                   |
|-----------------|-------------------|----------------|-------------------|
| 科目              | 金額                | 科目             | 金額                |
| <b>流動資産</b>     | <b>10,368,979</b> | <b>流動負債</b>    | <b>13,147,741</b> |
| 現金及び預金          | 3,039,326         | 支払手形及び買掛金      | 3,604,191         |
| 受取手形及び売掛金       | 4,141,799         | 短期借入金          | 4,060,000         |
| たな卸資産           | 1,839,934         | 1年内返済予定の長期借入金  | 744,966           |
| 繰延税金資産          | 395,129           | 未払法人税等         | 403,641           |
| その他の            | 954,155           | 賞与引当金          | 367,079           |
| 貸倒引当金           | △1,367            | 未払金            | 297,408           |
|                 |                   | その他の           |                   |
| <b>固定資産</b>     | <b>13,106,147</b> | <b>固定負債</b>    | <b>5,050,881</b>  |
| <b>有形固定資産</b>   | <b>12,324,401</b> | 長期借入金          | 3,159,308         |
| 建物及び構築物         | 5,102,241         | 退職給付に係る負債      | 1,224,836         |
| 機械装置及び運搬具       | 3,048,614         | 資産除去債務         | 224,995           |
| 土地              | 3,004,916         | 繰延税金負債         | 347,252           |
| 建設仮勘定           | 982,165           | その他の           | 94,488            |
| その他の            | 186,463           |                |                   |
| <b>無形固定資産</b>   | <b>213,774</b>    | <b>負債合計</b>    | <b>18,198,622</b> |
| <b>投資その他の資産</b> | <b>567,972</b>    | <b>純資産の部</b>   |                   |
| 投資有価証券          | 279,075           | 株主資本           | 5,098,232         |
| その他の            | 299,790           | 資本金            | 865,444           |
| 貸倒引当金           | △10,893           | 資本剰余金          | 629,828           |
|                 |                   | 利益剰余金          | 3,644,160         |
|                 |                   | 自己株式           | △41,201           |
|                 |                   | その他の包括利益累計額    | 158,477           |
|                 |                   | その他有価証券評価差額金   | 58,177            |
|                 |                   | 為替換算調整勘定       | 16,031            |
|                 |                   | 退職給付に係る調整累計額   | 84,268            |
|                 |                   | 非支配株主持分        | 19,794            |
| <b>資産合計</b>     | <b>23,475,126</b> | <b>純資産合計</b>   | <b>5,276,504</b>  |
|                 |                   | <b>負債純資産合計</b> | <b>23,475,126</b> |

# 連結損益計算書

(2017年9月21日から)  
(2018年9月20日まで)

(単位:千円)

| 科 目                           | 金 額        |
|-------------------------------|------------|
| 売 上 高 価                       | 26,340,579 |
| 売 上 原 価                       | 19,424,849 |
| 売 上 総 利 益                     | 6,915,729  |
| 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費           | 6,536,439  |
| 営 業 利 益                       | 379,289    |
| 営 業 外 収 益                     |            |
| 受 取 利 息                       | 4,975      |
| デ リ バ テ ィ ブ 評 価 益             | 15,309     |
| 持 分 法 に よ る 投 資 利 益           | 39,328     |
| 不 動 産 賃 貸 収 入                 | 15,816     |
| そ の 他                         | 15,602     |
|                               | 91,032     |
| 営 業 外 費 用                     |            |
| 支 払 利 息                       | 29,995     |
| シ ン ジ ケ ー ト 口 一 ン 手 数 料       | 7,498      |
| 債 権 売 却 損                     | 14,487     |
| そ の 他                         | 3,907      |
|                               | 55,889     |
| 特 別 経 常 利 益                   | 414,433    |
| 固 定 資 産 売 却 益                 | 277        |
| 関 係 会 社 株 式 売 却 益             | 416,749    |
| 補 助 金 収 入                     | 1,283,686  |
|                               | 1,700,713  |
| 特 別 損 失                       |            |
| 固 定 資 産 売 却 損                 | 458        |
| 固 定 資 産 除 却 損                 | 9,372      |
| 減 損 損                         | 222,469    |
| 投 資 有 価 証 券 評 価 損             | 21,491     |
|                               | 253,791    |
| 税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益         | 1,861,354  |
| 法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税       | 454,102    |
| 法 人 税 等 調 整 額                 | 258,443    |
| 当 期 純 利 益                     | 1,148,808  |
| 非 支 配 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 利 益 | 2,409      |
| 親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 利 益 | 1,146,399  |

## 連結株主資本等変動計算書

(2017年9月21日から)  
(2018年9月20日まで)

(単位：千円)

|                     | 株主資本    |         |           |         |           |
|---------------------|---------|---------|-----------|---------|-----------|
|                     | 資本金     | 資本剰余金   | 利益剰余金     | 自己株式    | 株主資本合計    |
| 当期首残高               | 865,444 | 629,828 | 2,634,654 | △41,018 | 4,088,909 |
| 当期変動額               |         |         |           |         |           |
| 剰余金の配当              |         |         | △136,893  |         | △136,893  |
| 親会社株主に帰属する当期純利益     |         |         | 1,146,399 |         | 1,146,399 |
| 自己株式の取得             |         |         |           | △183    | △183      |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) |         |         |           |         |           |
| 当期変動額合計             | —       | —       | 1,009,505 | △183    | 1,009,322 |
| 当期末残高               | 865,444 | 629,828 | 3,644,160 | △41,201 | 5,098,232 |

(単位：千円)

|                     | その他の包括利益累計額  |          |              |               | 非支配株主持分 | 純資産合計     |
|---------------------|--------------|----------|--------------|---------------|---------|-----------|
|                     | その他有価証券評価差額金 | 為替換算調整勘定 | 退職給付に係る調整累計額 | その他の包括利益累計額合計 |         |           |
| 当期首残高               | 32,249       | △22,592  | 87,209       | 96,867        | 17,277  | 4,203,054 |
| 当期変動額               |              |          |              |               |         |           |
| 剰余金の配当              |              |          |              |               |         | △136,893  |
| 親会社株主に帰属する当期純利益     |              |          |              |               |         | 1,146,399 |
| 自己株式の取得             |              |          |              |               |         | △183      |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | 25,927       | 38,623   | △2,940       | 61,610        | 2,516   | 64,127    |
| 当期変動額合計             | 25,927       | 38,623   | △2,940       | 61,610        | 2,516   | 1,073,449 |
| 当期末残高               | 58,177       | 16,031   | 84,268       | 158,477       | 19,794  | 5,276,504 |

# 貸借対照表

(2018年9月20日現在)

(単位:千円)

| 資産の部     |            | 負債の部         |            |
|----------|------------|--------------|------------|
| 科目       | 金額         | 科目           | 金額         |
| 流动資産     | 10,095,539 | 流动負債         | 9,747,335  |
| 現金及び預金   | 2,652,067  | 支払手形         | 246,249    |
| 取扱手形     | 135,239    | 買掛金          | 3,889,454  |
| 一掛債      | 3,954,617  | 短期借入金        | 900,000    |
| 商品及び製品   | 4,567      | 年内返済予定の長期借入金 | 579,966    |
| 商仕掛      | 753,236    | 一括債務         | 2,540      |
| 原前渡      | 431,772    | 未払費用         | 3,150,009  |
| 材料及び貯蔵   | 458,258    | 未払法人税        | 158,662    |
| 前前短      | 111,467    | 未預り          | 399,421    |
| 繰延税金資    | 32,627     | 賞与引当金        | 45,855     |
| 未そ貸      | 21,000     | 設備関係支払手形     | 321,552    |
| 倒引当      | 388,254    | その他の         | 52,241     |
| 固定資産     | 1,125,651  | 定期借入金        | 1,382      |
| 有形固定資産   | 27,278     | 長期借入債        | 3,159,646  |
| 建構機械及び装  | △500       | 一括貸付引当金      | 1,549,308  |
| 車両及び運搬   | 7,633,756  | 退職給付引当金      | 8,467      |
| 工具、器具及び備 | 6,154,438  | 長期預り保証金      | 1,306,703  |
| 土り建      | 1,791,670  | 資産除去看        | 71,710     |
| 一設固定資産   | 327,417    | の            | 209,146    |
| 無形借入     | 1,203,339  | の            | 14,311     |
| ソ電話      | 5,978      | 負債合計         | 12,906,981 |
| その他      | 99,771     | 純資産の部        |            |
| 投資       | 2,708,582  | 株主資本         | 4,772,222  |
| 投関出      | 10,388     | 資本剰余金        | 865,444    |
| 関係会社     | 7,290      | 資本準備金        | 635,039    |
| 破産延長投    | 173,045    | その他の資本剰余金    | 612,520    |
| 資本       | 31,883     | 利益剰余金        | 22,519     |
| 会社       | 125,716    | 利益準備金        | 3,312,940  |
| 更生       | 8,637      | その他利益剰余金     | 111,300    |
| 税金       | 6,808      | 別途積立金        | 3,201,639  |
| 不動       | 1,306,272  | 繰越利益剰余金      | 489,000    |
| の        | 252,838    | 自己株式         | 2,712,639  |
| 貸倒引当     | 606,143    | 評価・換算差額等     | △41,201    |
| 金        | 2,269      | その他有価証券評価差額金 | 50,091     |
| 不動       | 169,026    | 純資産合計        | 50,091     |
| の        | 10,885     | 負債純資産合計      | 17,729,295 |
| 貸倒引当     | 23,730     |              |            |
| 金        | 69,405     |              |            |
| 不動       | 76,890     |              |            |
| の        | 105,967    |              |            |
| 貸倒引当     | △10,885    |              |            |
| 資産合計     | 17,729,295 |              |            |

# 損益計算書

(2017年9月21日から)  
(2018年9月20日まで)

(単位:千円)

| 科                         | 目         | 金       | 額          |
|---------------------------|-----------|---------|------------|
| 売 売                       | 上 原 価     |         | 25,732,800 |
|                           | 売 上 総 利 益 |         | 18,975,051 |
| 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費       |           |         | 6,757,748  |
| 營 業 利 益                   |           |         | 6,120,384  |
| 營 業 外 収 益                 |           |         | 637,363    |
| 受 取 利 息                   |           | 1,972   |            |
| 受 取 配 当 金                 |           | 14,470  |            |
| デ リ バ テ ィ ブ 評 価 益         |           | 15,309  |            |
| 業 務 受 託 料                 |           | 7,645   |            |
| 不 動 産 賃 貸 収 入             |           | 15,336  |            |
| そ の 他                     |           | 13,802  | 68,535     |
| 營 業 外 費 用                 |           |         |            |
| 支 払 利 息                   |           | 18,727  |            |
| シ ン ジ ケ ー ト 口 一 ナ ン 手 数 料 |           | 7,498   |            |
| 債 権 売 却 損                 |           | 14,487  |            |
| そ の 他                     |           | 1,319   | 42,033     |
| 特 別 利 益                   |           |         | 663,865    |
| 特 別 利 益                   |           | 800,516 | 800,516    |
| 特 別 損 失                   |           |         |            |
| 固 定 資 産 売 却 損             |           | 458     |            |
| 固 定 資 産 除 却 損             |           | 8,811   |            |
| 減 損 損 失                   |           | 222,469 |            |
| 投 資 有 価 証 券 評 価 損         |           | 21,491  | 253,230    |
| 税 引 前 当 期 純 利 益           |           |         | 1,211,150  |
| 法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税   |           | 437,731 |            |
| 法 人 税 等 調 整 額             |           | △47,167 | 390,563    |
| 当 期 純 利 益                 |           |         | 820,587    |

## 株主資本等変動計算書

(2017年9月21日から)  
(2018年9月20日まで)

(単位：千円)

| 資 本 金               | 株 主 資 本   |          |         |         |
|---------------------|-----------|----------|---------|---------|
|                     | 資 本 剰 余 金 |          |         | 資本準備金   |
|                     | 資本準備金     | その他資本剰余金 | 資本剰余金合計 |         |
| 当 期 首 残 高           | 865,444   | 612,520  | 22,519  | 635,039 |
| 当 期 变 動 額           |           |          |         |         |
| 剩 余 金 の 配 当         |           |          |         |         |
| 当 期 純 利 益           |           |          |         |         |
| 自己株式の取得             |           |          |         |         |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) |           |          |         |         |
| 当 期 变 動 額 合 計       | —         | —        | —       | —       |
| 当 期 末 残 高           | 865,444   | 612,520  | 22,519  | 635,039 |

(単位：千円)

| 利 益 準 備 金           | 株 主 資 本   |           |           |               | 自 己 株 式 | 株主資本合計    |  |  |
|---------------------|-----------|-----------|-----------|---------------|---------|-----------|--|--|
|                     | 利 益 剰 余 金 |           |           | 利 益 剰 余 金 合 計 |         |           |  |  |
|                     | 利 益 剰 余 金 | 利 益 剰 余 金 | 利 益 剰 余 金 |               |         |           |  |  |
| 当 期 首 残 高           | 111,300   | 489,000   | 2,028,945 | 2,629,246     | △41,018 | 4,088,712 |  |  |
| 当 期 变 動 額           |           |           |           |               |         |           |  |  |
| 剩 余 金 の 配 当         |           |           | △136,893  | △136,893      |         | △136,893  |  |  |
| 当 期 純 利 益           |           |           | 820,587   | 820,587       |         | 820,587   |  |  |
| 自己株式の取得             |           |           |           |               | △183    | △183      |  |  |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) |           |           |           |               |         |           |  |  |
| 当 期 变 動 額 合 計       | —         | —         | 683,693   | 683,693       | △183    | 683,510   |  |  |
| 当 期 末 残 高           | 111,300   | 489,000   | 2,712,639 | 3,312,940     | △41,201 | 4,772,222 |  |  |

(単位：千円)

|                     | 評価・換算差額等     |            | 純資産合計     |
|---------------------|--------------|------------|-----------|
|                     | その他有価証券評価差額金 | 評価・換算差額等合計 |           |
| 当期首残高               | 29,370       | 29,370     | 4,118,082 |
| 当期変動額               |              |            |           |
| 剰余金の配当              |              |            | △136,893  |
| 当期純利益               |              |            | 820,587   |
| 自己株式の取得             |              |            | △183      |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | 20,720       | 20,720     | 20,720    |
| 当期変動額合計             | 20,720       | 20,720     | 704,231   |
| 当期末残高               | 50,091       | 50,091     | 4,822,313 |

招集ご通知

株主総会参考書類

事業報告

連結計算書類

計算書類

監査報告書

# 連結計算書類に係る会計監査人の監査報告書 謄本

## 独立監査人の監査報告書

2018年11月8日

マルサンアイ株式会社  
取締役会御中

### 三優監査法人

指 定 社 員 公認会計士 八 代 英 明 ㊞  
業務執行社員  
指 定 社 員 公認会計士 吉 川 雄 城 ㊞  
業務執行社員

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、マルサンアイ株式会社の2017年9月21日から2018年9月20日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

#### 連結計算書類に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、マルサンアイ株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

# 会計監査人の監査報告書 謄本

## 独立監査人の監査報告書

2018年11月8日

マルサンアイ株式会社  
取締役会御中

### 三優監査法人

指定社員 公認会計士 八代英明㊞  
業務執行社員  
指定社員 公認会計士 吉川雄城㊞  
業務執行社員

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、マルサンアイ株式会社の2017年9月21日から2018年9月20日までの第67期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。

#### 計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

## 監査役会の監査報告書 謄本

### 監査報告書

当監査役会は、2017年9月21日から2018年9月20日までの第67期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の結果、監査役全員の一致した意見として本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

#### 1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

- (1)当監査役会は、当期の監査の方針、監査計画等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
- (2)各監査役は、監査役会が定めた当期の監査方針、監査役監査実施要綱、監査計画等に従い、取締役、内部監査室その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施しました。
  - ① 取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。
  - ② 事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社及びその子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。
  - ③ 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（2005年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上のことから、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人三優監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人三優監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2018年11月9日

マルサンアイ株式会社 監査役会

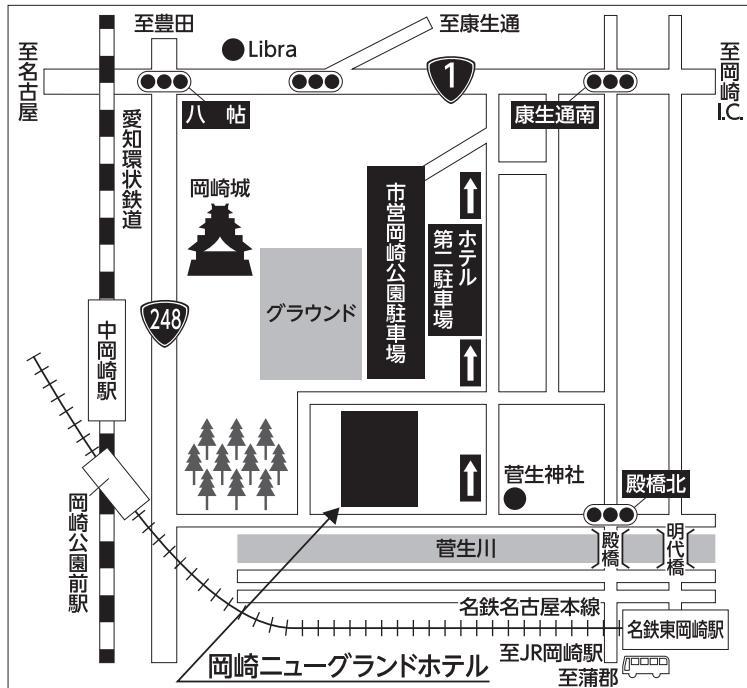
|       |      |   |
|-------|------|---|
| 常勤監査役 | 寺川和成 | ㊞ |
| 監査役   | 畠部泰則 | ㊞ |
| 監査役   | 新井一弘 | ㊞ |

(注) 監査役畠部泰則及び監査役新井一弘は、会社法第2条第16号及び第355条第3項に定める社外監査役であります。

以上

# 株主総会会場ご案内図

会場 愛知県岡崎市康生町515番地33  
岡崎ニューグランドホテル3階飛竜の間  
TEL 〈0564〉 21-5111



## ●会場までの交通のご案内

当時は、名鉄東岡崎駅（南側ロータリー）から送迎バスを運行いたしておりますので、ご利用下さい。

[午前9:00～10:00 随時運行しております。]

|              |      |      |
|--------------|------|------|
| 名鉄東岡崎駅より     | 徒歩   | 約15分 |
| 愛知環状鉄道中岡崎駅より | 徒歩   | 約10分 |
| JR岡崎駅より      | タクシー | 約10分 |

※駐車場の収容台数に限りがありますので、できる限り公共交通機関をご利用下さい。